

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

むかしむかし、御殿峠の頂上に、一人のじいさんが一軒の茶屋を開いていました。その茶屋の名物といえ、ぶかしたてのまんじゅう。峠を通る旅人の中には、そのまんじゅう食べたさに、わざわざ峠を通る人さえあったということです。

さて、ある日のこと。茶屋のじいさんが、いつものように店番をしていると、旅姿をした一人のお侍がやってきました。そして、店先の縁台に腰をおろすと

「饅頭を一人前たのむ。」

と、注文しました。じいさんが、

「へいへい、お待ちどうさまです。」

と、いつものようにぶかしたての饅頭を二つ、皿に乗せて出すと、お侍は、慌ててムシヤムシヤとほおぼり、お茶も飲まずに、ささと立ち去って行きました。

ところが、それから数刻も経たないうちに、また先ほどのお侍が、姿を現しました。そして同じように、まんじゅうを注文して、慌てて食べると、また立ち去って行きました。

そんなことが、次の日も、また次の日も繰り返されるものだから、さすがのじいさんも、①不思議に思っ、お侍の後をつけてみることにしました。

するとどうでしょう。お侍は峠を少し下ったところで、やぶの中に入ってしまった。木の葉を頭に乗せたかと思うと、ドロン、と狐に姿を変えてしまったではありませんか。

驚いたじいさんは、②急いで茶屋に戻りました。というのも、お侍にもらった銭が、にせものかもしれないと思ったからです。早速銭箱の銭を一枚一枚調べてみました。しかし、どの銭も本物のようです。どうにも納得のいかないじいさんは、もう一度狐のところへ行ってみることにしました。

そして、そっとのぞいてみると、先ほどはお侍に化けていたきつねが、今度は商人に化けているではありませんか。八王子の宿に下りていくその背中には、山で集めた木の实やきのこなどがいっぱい背負われています。

この狐は、実は真面目に商いをして、そのお金で饅頭を買っていたのです。ようやく事情のみこめたじいさんは

「何ともりぢな狐じや。今度来たたらんと食わしてやるべえ」と、つぶやきながら、峠の茶屋へ戻って行ったということです。

【「八王子のむかしばなし 峠のきつね」より】

問1 線部①不思議に思っ、後をつけてみることにしました

とありますが、じいさんは、なぜ不思議に思っただのですか。

ア お侍が持ってきた銭がにせものだったから。

イ お侍が短い間に何度も饅頭を食べに来たから。

ウ お侍が狐ではないかと思ったから。

エ お侍がやぶの中に入ってしまったから。



問2 線部②急いで茶屋に戻りました。とありますが、じいさんは、なぜ急いで茶屋に戻ったのですか。

お侍にもらった銭が、



と思ったから。